



被災地を元気にする「歌のチカラ」

NPO法人「東北岩手応援チャンネル」理事長 出淵 晴彦

「人ごとじゃない」思いにつき動かされて

東京で生まれ育った私にとって、両親の出身地であり、亡父の墓もある岩手は、幼い頃から身近に感じ、思い入れの深い心のふるさと。そこが東日本大震災に見舞われた時、じっとしてはいられない思いに駆られました。

初めて被災地を訪れたのは二〇一一年七月。宮城県の気仙沼市、南三陸町、福島県の相馬市、飯坂温泉の避難所や仮設住宅を訪ねて、シンガーソングライターの岸田敏志さんとライブを行いました。その後、ニュースなどで被災地の状況を耳にするたび、「人ごとじゃない」という気持ちになって、個人的にツイッターなどで募金を呼びかけ、資金を集めては、夏に扇風機、冬に温風機や布団乾燥機などの物資を届ける活動を続けました。

二〇一二年の夏以降、東京と岩手を何度も往復するうちに、「支援物資だけを届けて支援が終わるわけではない。もっと心に寄り添うことが必要だ」と感じるようになっていきました。その一方、物資の支援活動を通じた偶然的な出会いが重なって、さまざまな地元の方々を知り合うこともできました。ツイッターによって知り合った宮古市田老の中学生たちや各地域の人たちとの交流を重ねるうちに、映像クリエイター＆ギタリストという本業を活かして、「何か心のケアにつながることでできないだろうか」という思いが強くなっていったのです。

歌を届け、歌が生きる力にもなることを実感

そして二〇一二年夏、大船渡市、宮古市田老地区、岩泉町、田野畑村で、現地の人たちと一緒に歌うスタイルの音楽イベントを開催しました。その途中、ライブ出演および撮影を担当した陸前高田市の「うごく七夕まつり」の会場で、「(被災地に)たくさんの方が来て歌ってくれるのは本当にうれしい。でも、私たちも歌いたいたいよね。仮設住宅では大きな声で歌えないけれど、皆で歌える機会があれば、もっとうれしいんです」という現地の女性の話を聞きました。

その言葉がきっかけとなり、翌二〇一三年八月七日、陸前高田市の二カ所の仮設住宅に音楽家たちが集まり、被災地の皆さんに生演奏で歌ってもらうイベントを実施。参加した方が「津波で（全部流されて手元に）何も残っていないから、この歌詞カードがほしい」と言うのを聞いて、当り前の日常が当り前でなくなってしまう現実を再認識させられるとともに、それを少しずつでも取り戻していくお手伝いができればと強く感じました。

大好評だったこのイベントから生まれた企画が、被災地の方たちに自分の好きな歌を歌ってもらおう歌声喫茶です。実現に向けて、クラウドファンディングで「東北の『大声で歌いたい!』を叶える生演奏歌声喫茶を開きたい!」と呼びかけ、資金を募りました。

二〇一四年八月八日〜十日、大船渡町の屋台村、大槌町のわらびっこ商店街、田野畑村の障害者支援施設ハツクの家の子カ所で開催することができた音楽イベント「三陸歌声喫茶キャラバン」。たくさんの人に参加していただき、「震災後ずっと、（生き残った自分は）楽しんじゃいけないと思っていただけ、今日ここで三年半ぶりに歌ってみて、やっと吹っ切ることができました。これからは亡くなった友人の分まで楽しむつもりで生きていこうと思えました」と言ってくれた人もいたのです。改めて歌の持つ力を、そして歌が生きる力にもなることを実感させられました。

東京と被災地をつなぎ、「忘れない」を伝える

二〇一四年九月には、こうした活動を継続し、もっと広いネットワークを築いて全力で復興支援に取り組むためのNPO法人「東北岩手応援チャンネル」を設立しました。その目的には、「映像制作・映像配信を通じた復興、経済の支援事業（映像の力を通して、東北岩手の復興、発展、振興を支援すること）で効果的な地域社会活性化に貢献すること」、「イベント開催による街の活性化、町おこし支援事業（音楽等を介したイベントを興して、街づくり、町おこしを支援すること）でコミュニティづくり



事業を行い地域社会に寄与、貢献すること」を掲げています。



地区、大槌町で二回目の「三陸歌声喫茶キャラバンの番外編が、北上市でも地元ミュージシャンたちによって開催されました。

また、津波で消失した田野畑村鳥越地区の愛唱歌（旧鳥越小学校の校歌ができる前に歌われていたもの）を復活させ、CD化するプロジェクトにも取り組みました。

戦後間もない時代に作られ、七十歳代を中心に少数の人々の記憶の中だけにあった歌を、「生きる力につなげるために残したい」と願った一人の被災者との出会いをきっかけに、多くの人たちの協力によって歌はよみがえり、ついにCDが完成。二〇一五年十一月二三日、田野畑村愛唱歌保存お披露目会「たのはたココロのうた ふるさと想う音楽祭」が行われ、「楽しい思い出とともにある歌を取り戻し、心の支えに」という思いに込めることができました。

これからも東京と岩手、東北の被災地をつなぐ活動を続け、東京から見えているものが元気になるように多面的に応援していきたい。大いに歌のチカラを活用して、被災地の復興をしっかりと支援し続けたいと考えています。

